



特定非営利活動法人  
国際医療連携機構

第2回

# 国際フォーラム

## ～世界へ発信する日本の医療～

2014.6.22日

13:00～16:30

ミッドランドホール

愛知県名古屋市中村区名駅4丁目7-1  
ミッドランドスクエア オフィスタワー5階  
TEL: 052-527-8500

主催：特定非営利活動法人 国際医療連携機構 理事長 神野 哲夫

共催：(株)メディカルネットワーク 後援：愛知県、中日新聞社 協賛：愛知県医師会、三重県医師会

問合せ

特定非営利活動法人 国際医療連携機構 事務局(株式会社メディカルネットワーク内)

Tel/Fax: 052-613-7388 Mail: info@medinw.com <http://www.medinw.com>



# 国際医療連携機構 第2回 国際フォーラム

## ～世界へ発信する日本の医療～

### 《タイムスケジュール》

12:30～ 開 場

13:00～ 開会の挨拶  
神野 哲夫(国際医療連携機構 理事長)

13:10～ 来賓挨拶

13:30～ 講演① 「iPS細胞の実用化に挑む ～現状と課題～」  
阿曾沼 慎司 先生 元厚生労働事務次官、京都大学iPS細胞研究所 顧問  
座長:石堂 功卓(国際医療連携機構 理事)

14:10～ 講演② 「グローバル化時代における大学の役割 ～三重大学の挑戦～」  
堀 浩樹 先生 三重大学 理事・副学長(国際交流担当) 国際交流センター長  
座長:丸田 守人(国際医療連携機構 副理事長)

14:50～ 講演③ 「これからの国際医療展開 ～MEJの役割と今後の方向～」  
山本 修三 先生 内閣官房参与 一般社団法人 Medical Excellence JAPAN 理事長  
座長:船曳 孝彦(国際医療連携機構 理事)

15:30～ 講演④ 「医療分野における国際相互理解の促進」  
川崎 二郎 先生 自由民主党 衆議院議員、元厚生労働大臣  
座長:原田 俊一(国際医療連携機構 理事)

16:10～ 閉会の挨拶  
中山 信義(国際医療連携機構 理事)

## 理事長挨拶

本日は、この国際フォーラムに御参加下さいまして、誠に有難うございます。「世界に発信する日本の医療」と題しまして、この面で卓越した指導力を発揮しておられる4人の先生方に御講演を頂くことになりました。

御存知かと思いますが、安倍内閣は世界に日本の素晴らしい医療、「日本式医療」を薦め、そして同時に、日本経済の発展の一つの原動力にしたいと考えておられます。私共はそのお考えに大賛成です。

ところで、私共の特定非営利活動法人国際医療連携機構は、約1年半前に設立されました。日本式医療を世界の発展途上国へ、そしてそれらの地域の患者さん方に優しい目線を投げかけようが、その目的であります。

実は、私共は発展途上国の医療支援活動において、既に25年間の実績があります。それらの経験により、世界には、医療の未発達はもとより「雨、露」も凌ぐことさえ出来ない人々が大勢いることを知りました。このような弱者の立場におられる方々に何とか優しい目線を投げかけたいと言うのが、我々の根本の思いであります。

日本式医療を世界に広めたいという考えには、大賛成です。しかし、よく考えてみますと、医学、医療の発展の著しいのは日本だけではありません。アメリカ、ヨーロッパはもとより、最近では中国、韓国の発展も著しいものがあります。これらに勝り、日本式医療を広め、ましてや、それをビジネスにつなげると言うことは、生半可なことではありますまい。

私共は、現在「日本式医療」と言う概念をより明確にしようと考えております。現時点で、私共は「日本式医療」とは、「お・も・て・な・し」医療だと考えています。このような言い方をすると、政界、官界、特に実業界の方々からは、「何を甘いことを言っておるのか!」とお叱りを受けるかもしれません。しかし、私共の考えている、また既に25年間実行してきた日本式医療とは、①朝早く回診するのは当たり前として、夜、帰宅する前にもう一度患者さんを診に行く。  
②日曜、祭日でも一度は患者さんを診に行く。  
③そしてお正月でも、朝のお祝いをする前に家族を待たせておいて、まず患者さんを診に行く。  
④若い医者達には「普段はどんなに嫌な奴と思われても良い。しかし、一度患者さんと対峙したら、その表情、人格、人間性までも180度転換して、徹底的に弱き立場におられる方に優しい目線を!」と教える。  
⑤これらの上で、最新の日本式医療知識、技術、医療機器、医薬品を用いて、患者さんを治療する。  
以上の如きものです。

これからもこのような基本姿勢で、発展途上国の方々、特に医師、看護師、リハビリの方々、そして学生さん達との連携、御指導を賜わりながら行っていきたいと思います。

しかし、いずれにしましても、医師はじめ、医療関係者のみでは大した活動や成果を得ることは出来ません。

やはりこれには、政界、財界、官界、実業界の方々の御支援、御指導を頂かなければなりません。

本日は以上のような背景も含めて、御講演を賜わる4人の先生方には、いろいろと御教授、御指導が頂けるものと確信しております。

どうぞ、御来場の皆様も、御静聴の程をお願いするとともに、今後何かと御支援を賜わりたく、伏してお願い申し上げます。



神野 哲夫

かんのてつお

### 【略歴】

昭和15年4月9日生

慶應義塾大学医学部卒業

1979年 藤田保健衛生大学  
医学部脳神経外科学教授

1993年 藤田保健衛生大学 救命救急センター長

2003年10月 藤田保健大学病院 院長就任

2003年10月 藤田学園 理事

### 【現在】

藤田保健衛生大学医学部 名誉教授

特定非営利活動法人 国際医療連携機構 理事長

世界脳神経外科学会 終身名誉会長

アジア脳神経外科コンgres 名誉理事長

日本脳神経外科学会 特別会員

日本脳卒中学会 名誉会員

### 【客員教授】

Barrow Neurological Institute (アメリカ)

南京大学医学部 (中国)

蘇州医学院附属第一医院 (中国)

バンドン大学 (インドネシア)

マドレイ メディカルカレッジ (インド)

スリ ラマチャンドラ医科大学 (インド)

### 【名誉教授】

スリ ラマチャンドラ医科大学 (インド)

天津医科大学 (中国)

First Military Medical University (中国)

### 【名誉会員】

Societatea Romania De Neurochirurgie  
(ルーマニア)

Guangzhou Neuro-Oncology Society (中国)

Honorable members of Indian Society of  
Neurosurgery (1999年)

Honorary Life Membership of Bangladesh  
Society of Neurosurgeons (2004年)

International Sponsors of Arab College  
of Neurosurgery (2004年)

Member of the Senior Advisory Panel for  
Journal Policies and Development (2009年)

(Official Journal of the World Federation  
of Neurosurgical Societies)

## iPS細胞の実用化に挑む～現状と課題～

ノーベル生理学・医学賞を受賞した京都大学の山中伸弥教授は、ヒトから採取した皮膚の細胞に4つの遺伝子を導入することで、受精卵に近い初期化された細胞(iPS細胞)をつくることに世界で初めて成功しました。

iPS細胞には次の3つの特徴があります。

- ・ほぼ無限に増殖できる
- ・神経細胞や心筋細胞といった、さまざまな細胞に変化(分化)できる
- ・自分個人のiPS細胞を作ることができる

こうした特徴を活かすと、次のようなイノベーションを実現することが可能です。

### ・再生医療

iPS細胞から分化誘導した細胞(神経細胞・色素上皮細胞など)を患部に移植して治療することができます。

→患者さん本人のiPS細胞や免疫型(HLA型)が適合している他人のiPS細胞から分化細胞を作製すれば、免疫拒絶反応を小さくすることができます。

また、ES細胞に比べ、倫理的な問題が少ないというメリットもあります。

京都大学iPS細胞研究所では、昨年夏頃、再生医療用のiPS細胞ストックを作製し、現在、品質(細胞の形態、遺伝子の変異等)を評価しています。

なお、今年の夏頃には、加齢黄斑変性症に対する細胞治療の臨床研究が国内で初めて始まる見込みです。

### ・創薬

患者さんの疾患(病態モデル)を人体の外で再現し、原因や発生過程を研究・解明することにより、疾患の治療に有効な候補物質の早期発見や新薬の開発につなげることができます。

今後、このiPS細胞の技術を実用化するためには、大きく2つの課題があります。一つは倫理面の課題、もう一つは安全性の課題です。

倫理の課題については、この技術を活用すれば、理論上は、iPS細胞から人工的に作製した精子と卵子で人工授精し、生命を産み出すことも可能になります。これらの点については、倫理的に許されるのかといった観点から社会全体での議論が必要です。

安全性の課題については、感染症やがん化するリスクも完全には排除できないことです。従って、iPS細胞や分化細胞の品質評価を徹底し、できる限り安全性を確保する努力を継続していく必要があります。

私たちはこの日本発の発見を実用化し、一日も早く世界中に提供したいと考えています。



阿曾沼 慎司  
あそぬま しんじ

元厚生労働事務次官  
京都大学iPS細胞研究所 顧問

昭和26年3月生まれ 広島県出身

昭和49年3月	京都大学経済学部卒
昭和49年4月	厚生省入省
昭和59年～昭和62年	徳島県庁出向
平成4年～平成7年	JETRO ニューヨークセンター駐在
平成15年～平成17年	厚生労働省医薬食品局長
平成17年～平成18年	大臣官房長
平成18年～平成20年	老健局長
平成20年～平成21年	社会・援護局長
平成21年～平成22年	医政局長
平成22年～平成24年	事務次官
平成24年9月	厚生労働省退官
平成25年4月～	京都大学iPS細胞研究所顧問



堀 浩樹

ほり ひろき

三重大学 理事・副学長(国際交流担当)  
国際交流センター長

【略歴】

- 1984年 三重大学医学部卒業
- 1990年 同・大学院修了
- 1990-1993年 ガーナ大学野口記念医学研究所研究員  
JICAプロジェクト長期専門家  
プロジェクトリーダー
- 1993-1994年 三重大学医学部附属病院  
小児科医師
- 1994-1996年 カリフォルニア大学  
サンディエゴ校医学部研究員
- 1997-2000年 三重大学医学部小児科助手
- 2000-2004年 同 講師
- 2004-2009年 同 助教授  
(学内組織の部局化に伴い、三重  
大学大学院医学系研究科准教授)
- 2005年 JICAタンザニア  
母子保健プロジェクト短期専門家
- 2009-2013年 三重大学大学院  
医学系研究科医学医療教育学分野教授
- 2013年 - 現在 三重大学理事・副学長

【専門医・指導医など】

日本小児科学会専門医、日本血液学会専門医・指導医、がん治療認定医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、小児血液・がん学会理事(国際委員長)・暫定指導医、日本小児白血病・リンパ腫研究グループ(JPLSG)理事・副運営委員長、日本小児がんグループ(JCCG)理事

## グローバル化時代における大学の役割 ～ 三重大学の挑戦 ～

日本の医学教育が変革の時期にあることは、医療関係者に広く認知されているところであり、その医学教育改革の重要な要素として、教育の国際通用性と保健医療の国際化に対応できる人材の育成が上げられる。人、もの、情報だけでなく病気が国を超えて移動、伝播していく世界で、国際社会の保健医療ニーズを広く理解し、グローバル社会の保健医療に貢献できる人材の育成を行うことが大学に求められている。また、新興国や開発途上国では、経済の発展とともに感染症に代わる新しい健康課題として新生児疾患、がん、生活習慣病、事故などの非感染性疾患が注目されるようになり、これら病気に苦しむ人達の健康に貢献できる人材育成支援と日本の専門医療の経験の活用が、日本の高等教育機関や医療機関には望まれている。

三重大学医学部では、海外の医療や医療システムの実体験によるグローバル・ヘルスを理解する機会を医学部学生に提供することを目的に、大規模かつ先進国から開発途上国までの広いスペクトラムを持つ海外実習を実施している。この海外での体験的学習機会は、入学後より卒業まで継続して提供され、医学部最終学年次には、一学年の約半数がアジア・アフリカなどの国々での臨床実習に参加している。また、タイ、アラブ首長国連邦、タンザニアにある医学部・公衆衛生学部と本学との協力による「地域保健医療教育プログラム」を地域医療再生に向けての人材育成プログラムに導入しており、医学部第1-2学年学生がこの国際通用性のある地域保健医療実習に参加している。さらに、アジア・アフリカの協定大学を対象に本学独自の大学院国際推薦制度を導入し、これらの国の発展を支える人材の育成と若い世代の国際交流基盤の形成に努めている。診療支援としては、小児がん領域において本学と日本小児血液・がん学会との連携の下、新しい国際支援の枠組の構築に向けての活動を開始している。

本講演では、これらの取組みの成果と課題について紹介したい。

## 日本の新しい国際医療協力 ～MEJの役割と今後の方向～

日本の医療は、その質、安全性、医療行為の成績、ホスピタリティなどの点から、国際的にも高い評価を受けている。こうした我が国の医療を求める国も多い。このような背景を踏まえて、経済成長戦略の中に、医療国際協力は重要な柱の一つとして、位置付けられ、これを推進する体制として、内閣官房内に健康・医療戦略室が設置された。

健康・医療戦略の理念として、1. 社会保障と財政の持続可能性を確認するなかで、健康長寿社会を実現し、活力ある社会を構築する。2. 課題解決先進国として、超高齢化社会を乗り越える姿を世界に広げる。3. 医療関連産業を活性化し、我が国経済の成長に寄与する。4. これらの活動によって、我が国の互恵的な関係の構築に寄与することが掲げられた。

この医療国際協力をミッションとして、これをオールジャパン、官民一体となって推進するため、政府の支援の下に、医療機関と医療機器メーカー等が連携した医療サービス海外展開の事務局の機能を果たす民間機関として、一般社団法人Medical Excellence Japan(MEJ)が、組織改編をし、昨年4月、新たにスタートした。

それから一年、新MEJは40社に達する医療機器企業及びその関連企業等と60を超える医療機関の協力を得て、主として、ロシア、中東、ASEAN、東アジア等を中心としたアウトバウンド事業、また、日本で医療を受けたいという患者の受け入れなどインバウンド事業等を、官民ミッションとして支援する「ハブ」の役割を果たしてきた。

この一年間、内外に展開してきた、これらの活動の成果を報告すると共に、今後の国際医療活動の方向と課題について述べる。



山本 修三

やまもと しゅうぞう

内閣官房参与  
一般社団法人  
Medical Excellence JAPAN 理事長

### 【略歴】

- 昭和34年 慶應義塾大学医学部卒業
- 昭和39年 慶應義塾大学大学院医学研究科修了  
(専門は外科、救急医療)  
慶應義塾大学医学部外科学教室入局
- 昭和42年 米国シンテックスリサーチセンター  
研究員
- 昭和44年 慶應義塾大学医学部外科学教室帰局
- 昭和48年 済生会神奈川県病院外科医長
- 昭和63年 同救急センター部長
- 平成2年 同院長
- 平成14年 同名誉院長
- 平成16年 日本病院会会長
- 平成22年 日本病院共済会代表取締役
- 平成24年 一般社団法人  
Medical Excellence JAPAN 理事長、  
現在に至る

内閣官房健康・医療戦略室健康・医療戦略参与、  
慶應義塾大学医学部客員教授、慶應義塾評議員、  
アジア病院連盟 元会長、日本救急医学会・日本  
外傷学会名誉会員。  
腹部外傷の臨床、医療制度、地域医療等に関する  
もの多数あり。

## 医療分野における国際相互理解の促進

医療の国際展開は、保健医療の向上と産業振興の両立を図るための改革と一体である。近年、医療分野の改革は着実に進められており、それらが医療の国際展開の礎となっている。

また、医療の国際展開においては、相手国の政府機関、省庁との間で意見交換や交渉が欠かせない。医療に関する施策や制度については、やはり厚生に関する政策を担当する者同士が話し合えるチャンネルが重要である。その上で、各国・地域の実情に適した医療を、人的協力や保険制度等と一体化して輸出するためには、我が国の他省庁との連携も必要になる。

私が厚生労働大臣時からの課題であった国内での医師不足は様々な施策の実施により、ようやく解消の兆しが見えてきた。しかしながら少子化による人口減少化社会に突入した日本は長期スパンで見ると医師が余る事態になることが予測される。

これらを考えるとこれからの日本の真の国際貢献とりわけ医療貢献とは日式病院建設協力は勿論の事、日本の医師・看護師・医療従事者の派遣や各国医療従事者との交流、日式病院のマネジメント、システムづくりにおける協力が特に必要となるだろう。また今後海外で活躍できる医師・看護師の語学を含めた教育・育成なども重要な課題であろう。

これらの事が日本の最先端医療技術・サービスを堅持し且つ現政府が行う医療分野の国際輸出、日本製製薬・医療機器の海外展開の基盤になるであろうと考える。



川崎 二郎

かわさき じろう

自由民主党 衆議院議員  
元厚生労働大臣

### 【略歴】

昭和46年 慶応義塾大学商学部卒業  
松下電器産業株式会社に入社  
昭和55年 第36回衆議院選挙に初当選  
平成2年 郵政政務次官  
平成3年 衆議院運輸・通信委員会理事  
党同部会  
平成5年 衆議院議院運営委員会理事等  
平成7年 地方行政委員長  
党国会対策副委員長  
党三重県支部連合会会長  
平成8年 党国会対策筆頭副委員長  
平成9年 党通信部会・地方政策小委員会  
委員長  
平成10年 運輸大臣  
平成11年 北海道開発庁長官  
平成14年 国会対策筆頭副委員長  
平成16年 衆議院議院運営委員長  
平成17年 衆議院議院運営委員長再任  
平成17年10月 厚生労働大臣  
平成21年 9月 自由民主党国会対策委員長  
平成22年 8月 自由民主党財務委員長  
平成24年12月 10回当選